

■ 会議報告

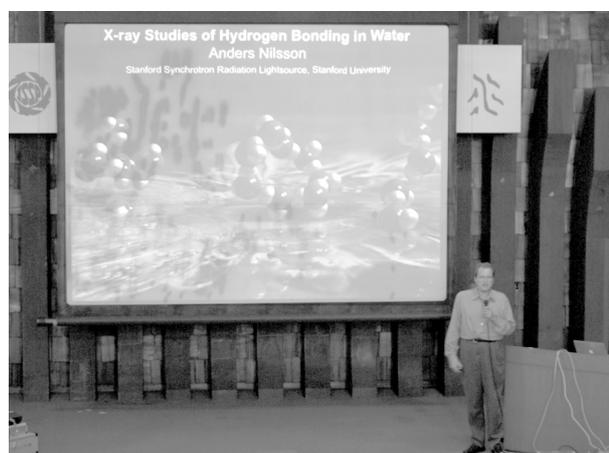
Horiba-ISSP International Symposium on “Hydrogen and water in condensed matter physics”

吉信 淳 (東京大学物性研究所)

2009年10月12日から10月16日まで、千葉県長生郡の「生命の森リゾート」で、“Horiba-ISSP International Symposium (ISSP11) on Hydrogen and water in condensed matter physics”が開催された。この国際シンポジウムは、主に東京大学堀場国際会議からの支援を受けて運営された。東大堀場会議の趣旨をふまえて、参加者は上記会場に開催期間をとおして泊まり込みで発表と議論を行った。国内外から22件の招待講演、19件の口頭発表（依頼講演＋一般講演）および49件のポスター発表（当日欠席者数名を含む）があった。参加者数は103名であった。大門先生を実行委員長として行われた「第11回電子分光電子構造国際会議 (ICCESS-11)」のWeb ページに本シンポジウムをリンクしていただいたので、海外からも連続して参加された研究者があった。

本シンポジウムでは、地球および宇宙にユビキタスに存在し、最近エネルギーや環境問題から注目を集めている水素と水について、物性物理の立場から議論を行った。具体的なスコープは、水の凝集相、宇宙や生体での水、物質中（生体から固体まで）のプロトントランスファー、ソフト

マターと水、材料中の水素、水素結合と水の電子状態、高圧下の水、表面における水素と水、電気化学反応、制限空間における水、水素の量子効果などである。従来の学会や



口頭発表風景 (スタンフォード大学・Nilsson 教授)



参加者集合写真 (千葉県・生命の森リゾート「森のホール」にて)

専門分野の垣根を取り払い「水素と水」という共通の対象系について、様々な分野から第一人者の講演を聞くことができた。特に、放射光分光（軟 X 線吸収/発光分光、光電子分光など）を用いた水と水溶液の電子状態に関するセッションでは、招待講演者のスタンフォード大学の Nilsson 教授、ネバダ大学の Heske 教授をはじめ、東京大学放射光連携機構の原田博士も含めて最先端の研究成果が報告され、活発な議論となった。また、ポスターセッションでは、若手研究者から非常に質の高い発表が多数あった。本シンポジウムは参加者が会場に泊まりこんで行われたので、散歩や食事中でもインフォーマルで活発な議論をすることができ、共同研究のきっかけもできたと聞いている。

会議は成功裡に終わり、会議後に海外招聘者から届いたメールのなかには、“It was a wonderful meeting, perfectly organized, and with an outstanding scientific program—I learned a lot!” というメッセージもあった。

なお、会議の Scope やプログラムについては、下記の Web サイトから情報を得ることができる。

<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/public/issp-11/index.php>

また、Extended Abstract 集（1 件あたり A4 で 2 ページ）には数 10 部ほど余りがあり、実費でおわけすることができるので、興味のある方は下記のアドレスへ連絡して下さい。

issp11srt@issp.u-tokyo.ac.jp

一口メモ

デージー（雛菊）

キク科ヒナギク属の秋まき一年草で、パンジーとならび、年初めの花壇を代表する花である。デージーとは“Day's eye”で、寒さが去り、早春の陽を浴びて咲く花に相応しい名前である。葉はへら形で、葉の間から花軸を抜き、白色または帯紅色の頭花を次々と咲かせる。学名のベリスは木の妖精の名前である。

2010年の年始に、富士山、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳を望むことの出来る憐りガク山梨工場内の会議室にて、韓国から4名の研究者を招き、日本人6名と一緒に、第9回日韓ワークショップを開きました。前日は近くの旅館の温泉に浸かった後に、夜遅くまでさまざまな話題で歓談し、当日は早朝からお昼過ぎまで、密度の高い発表、議論で盛り上がりました。その後、近くの美術館にて、すばらしい英語を話す女性ガイドの方からウイスキーが完成するまでの工程の説明を聞きました。4名の韓国の方は翌日の早朝に旅館を去りましたので、私を含めた3名は諏訪地区に出かけ、茅野に住んでいます友人の案内で、諏訪大社上社本宮、諏訪湖、諏訪高島城を見ました後に、中央自動車道を利用した高速バスで新宿に戻りました。

(No. 91, K. Ohshima)

